別記様式第１号の２（第３条、第51条の８関係）

消防計画作成（変更）届出書

年　　月　　日

四日市市　　消防署長

□防火
□防災　管理者

住　所

氏　名

別添のとおり、□防火 □防災　管理に係る消防計画を作成（変更）したので届け出ます。

管理権原者の氏名 （法人の場合は、名称及び代表者氏名）			
防火対象物 又は　　の所在地 建築物その他の工作物			
防火対象物 又は　　の名称 建築物その他の工作物 （変更の場合は、変更後の名称）			
複数権原の場合に管理権原に属する部分の名称 （変更の場合は、変更後の名称）			
防火対象物 又は　　の用途※1 建築物その他の工作物 （変更の場合は、変更後の用途）		令別表第１※1	（　）項
その他必要な事項 （変更の場合は、主要な変更事項）			
受　付　欄※2	経　過　欄※2		

備考　１　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。
　　２　□印のある欄については、該当の□印にレを付けること。
　　３　※１欄は、複数権原の場合にあっては管理権原に属する部分の情報を記入すること。
　　４　※２欄は、記入しないこと。

（テナント専用）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**消防計画**（　　年　月現在）

１ 目的と適用範囲

この計画は、火災等の災害の予防と人命の安全及び被害の軽減を図ることを目的とし、この計画で定めたことは、ここに勤務し、出入りする全ての者が守らなければならない。

２ 自衛消防計画（災害発生時に果たすべき任務）

ア　火災、その他災害発生時における被害を最小限度にとどめるため、防火管理者は災害発生時には、統括防火管理者が作成する消防計画で定める自衛消防隊が編成されるまでの間、全力を挙げて下記に定めるほか必要な任務を果たすものとする。

実施項目	具体例	実施要領（該当する項目にチェック）
統括 （防火管理者）		□各担当者への指示と状況把握 □消防隊への連絡、情報提供
火災の周知 (火災発見者が行う)	大声で知らせる ベルを使う	□他のテナントに聞こえるように大声で「火事だ！」と叫ぶ □火災報知機または非常ベルの押しボタンを押してベルを鳴らす □----------
初期消火 （担当者） ----------	消火器を使用して消火	□消火器を使用して消火する □必要ある場合は近隣のテナント等に助けを求める □屋内消火栓を使用して消火する □----------
通報 （担当者） ----------	携帯電話でも可	□ビルの住所・名称・火災発生階・テナント名をはっきり伝える □初期消火、負傷者の状況、燃えている物など、知り得た情報をできるだけ伝える □----------
避難誘導 （担当者） ----------		□外来者を誘導し、地上まで避難させる □階段が使用できない、または階段までたどり着けない時は避難器具を使用して避難させる □負傷者が発生した場合は、身近にあるものを用いて応急手当を行う □逃げ遅れ者がいないか最終確認する □一時的な避難場所は（　　）とする ----------

イ　防火管理者は、災害発生時において必要のある場合は、下記のとおり近隣のテナント等に協力を求めるものとし、可能な限り各テナント等に了解を得ておく。

階	テナント名	責任者名	依頼する事項	依頼日
			初期消火の協力 ・屋内消火栓を使用する場合の協力	
			避難誘導の協力 ・店舗の外に避難した外来者を安全な場所まで誘導する	
			通報の協力 ・初期消火等にてやむを得ない場合は、消防機関への通報を代行する	

３ 火災予防上の自主検査

ア　平素の火災予防および地震時の出火防止を図るため、防火管理者は平常時において下記に定めるほか、必要な事項を確認し、不備のある場合は速やかに改善する。

項目	確認事項（確認の必要のあるものにチェック）
火元管理	□ガスの元栓を毎日確認している □コンロの周りにふきん等の可燃物がない □コンロと壁の間隔を少し空けてある □コンロに面する壁に熱がこもっていない □ガスもれ警報装置を取り付けてある □定期的に業者の点検を行っている □電気調理器具、ポット等は使用しない時はコンセントを抜く □喫煙の後始末は確実に行っている □電気コード、コンセントの破損や異常がないか随時確認する □…… □……
建物管理	□共有の通路・階段に障害物、可燃物が放置されていない※ □通路への扉は非常時にはすべて容易に開放できる □防火扉、シャッターが支障なく開閉できる※ □外部への窓は非常時には容易に開放できる □カーテン、じゅうたんは防炎性能のあるものを使用している □ゴミ等可燃物を建物の周囲に放置していない ※建物全体に関するものは、建物管理者等の関係者に通報する。 管理者（会社）名…… 連絡先 …… □…… □……
設備管理 ビル内に設置されている消防用設備 …… …… …… …… ……	**消火器** □消火器が手元にある □消火器が買って５年以内、または点検済みである □消火器の使用方法がわかる **屋内消火栓**［ある・ない］ □屋内消火栓の位置がわかる □近隣のテナント関係者と協力して、屋内消火栓を使うことができる □…… **自動火災報知設備**［ある・ない］ □火災報知機の受信機がどこにあるかわかる □火災報知機の受信機を見て、どの位置で異常があったかわかる □火災報知機の押しボタンの位置がわかる □火災報知機が誤作動を起こしたとき、ベルを止めることができる □物入れ・更衣室など感知器のない間仕切りを新たに作っていない □…… **非常警報設備（非常ベル）**［ある・ない］ □非常ベルの押しボタンの位置がわかる □非常ベルの停止方法がわかる □…… **避難器具**［ある・ない］ □避難器具の設置場所がわかる □避難器具の使用方法がわかる □避難器具の降下地点に障害物（植栽・駐車車両等含む）がない □……

４ 教育、訓練

防火管理者は、従業員（アルバイト等含む）に対して、本計画を周知するとともに、入居するビルについての統括防火管理者が作成する消防計画で定める自衛消防訓練に参加するなど、年２回以上の訓練を実施するものとし、管轄の消防署へ計画を通報する。

５ 夜間･無人時の防火管理

夜間および休日等で無人になる場合は、下記（　　）のとおり防火管理を行う。

ア　警備会社に委託する場合

警備会社名……　担当者名……

緊急時の連絡先……電話……

警備会社への委託内容･･･（　）（　）（　）（　）（　）

1　異常発生時における関係機関への通報

2　異常発生時における現場確認

3　火災発生時における初期消火、消火協力

4　火災発生時における避難誘導の協力

5　……

イ　付近に在住する従業員に連絡する場合（防火管理者）

従業員名（役職）……

住所……電話（自宅）……

……（携帯等）……

ウ　建物の一部、または隣接する建物に居住する場合

居住する場所……

世帯主名……電話……

エ　その他、備考

……

……

……

６ その他

ア　防火管理者の変更、建物の増改築に伴う避難経路の変更等により本計画に変更が生じた場合は遅滞なく管轄消防署にその旨を記した消防計画変更届出書を提出する。

イ　……

……

……

……

……

……

……

……

（下記に必要な事項を記入し、電話のそばの見やすいところに貼っておいてください。）

火災時の通報マニュアル

（火事・救急）です。

.....の .....の .....です。

電話番号は、.....で、わたしの名前は.....です。

↓燃えているもの

（　　）が燃えています。

↓水バケツ・ホース・消火器・屋内消火栓など　↓消えた・消えません

［初期消火を試みた場合］（　　）で消そうとしましたが、（　　）。

↓全員避難しました・今避難しています・逃げ遅れ者がいます

現在、お客様や他のテナントの人は、（　　）↓いません・○人います

けが人は（　　）。

火災時の避難経路と一時避難場所